

October 1, 2021

【前日の為替概況】ドル円、7日ぶり反落 高値更新するも弱い指標や月末フローで失速

30日のニューヨーク外国為替市場でドル円は7営業日ぶりに反落。終値は111.29円と前営業日NY終値(111.96円)と比べて67銭程度のドル安水準だった。米連邦準備理事会(FRB)による早期利上げ観測を背景にドル先高観が強まる中、20時30分前に一時112.08円と昨年2月21日以来約1年7カ月ぶりの高値を付けたものの、その後失速した。112円台では利食いなどが出たほか、昨年2月20日の高値112.23円が重要なレジスタンスとして意識されたため一転売りが優勢となった。前週分の米新規失業保険申請件数や9月米シカゴ購買部協会景気指数が予想より弱い内容だったことが分かると円買い・ドル売りが活発化。月末・期末のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに絡んだ円買い・ドル売りも観測された。米国株相場の失速も相場の重しとなり、一時111.24円と日通し安値を付けた。市場では「ここ数日の急激なドル高への過熱感もあり、ドルを売り戻す動きが強まった」との声が聞かれた。

米連邦政府の債務上限問題を巡る与野党交渉の難航も警戒された。米上下両院はこの日、12月3日までの連邦政府の資金を手当てするつなぎ予算案を賛成多数で可決。バイデン大統領の署名を経て成立する。ただ、つなぎ予算が成立しても、債務上限問題で合意しなければ米国債が初の債務不履行に陥りかねない。市場では「与野党の対立で、インフラ投資法案の成立も難しくなる」との懸念がある。

ユーロドルは5日続落。終値は1.1580ドルと前営業日NY終値(1.1598ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ安水準だった。低調な米経済指標などを受けてユーロ買い・ドル売りが先行すると一時1.1598ドル付近まで値を上げたものの、ロンドン・フィキシングにかけてユーロ売りが強まると、1.1563ドルと昨年7月23日以来約1年2カ月ぶりの安値を更新した。ユーロ豪ドルは一時1.5980豪ドル、ユーロNZドルは1.6748NZドル、ユーロポンドは0.8578ポンドまで値を下げた。

ユーロ円は続落。終値は128.88円と前営業日NY終値(129.85円)と比べて97銭程度のユーロ安水準。ドル円の失速やユーロクロスの下落につれた売りが出て、一時128.79円と日通し安値を付けた。ダウ平均が大幅に下落したことも相場の重し。高く始まったダウ平均は失速し、一時550ドル超下落した。米債務上限問題やサプライチェーン(供給網)の混乱など悪材料がくすぶる中、「四半期末とあって、手じまい売りが出やすかった」との声が聞かれた。

【本日の東京為替見通し】国慶節始まりもみ合いか、日銀短観の想定為替レートには要注目

本日の東京時間のドル円は、111円台でもみ合いか。本日から10月に入るが、9月の株式市場はアノマリー通り(9月は株安)で終了した。今月に入り株価の反転期待があるものの、ダウ平均は昨日の下落もあり、日足一目均衡表・雲の下限を下抜け三役逆転で、売りシグナルが点灯している。米株が軟調地合いを維持すれば、米金利が上昇した場合でもドル円やクロス円の頭を抑える要因になりそうだ。

本日のアジア時間で大きな値動きが期待できないのは、本日から国慶節が始まり中国と香港市場が休場となることだ。中国恒大集団については、7日の連休明けにかけて様々な憶測が流れるだろうが、国慶節初日から大きな発表が流れる可能性は低いか。また、米議会下院は昨日、12月3日までの連邦政府の資金を手当てするつなぎ予算案を賛成多数で可決した。政府機関の閉鎖が回避され、12月3日までつなぎ予算で資金が手当てされることになったため、しばらくの間は米債務上限リスクが後退した。

本日東京時間で発表予定の経済指標では、本邦の9月調査の日銀・企業短期経済観測調査(短観)に注目したい。かつてのように日銀短観で市場が大きく動くのは難しいだろうが、想定為替レートの水準は、今後の為替市場を取引するうえで参考になるだろう。6月調査では2021年度通期および下期の想定為替レートは106.71円だった。7月1日の発表時は111円台で、水準よりかなりの円高水準だったと言える。また、ユーロ円は2021年度通期が125.27円、下期が125.26円だった。この想定レートからどのように変移しているかが要注目。

他通貨では、ここ最近のアジア市場を牽引していた豪ドルを中心とするコモディティ通貨も動意薄になるか。昨日もシンガポール取引所(SGX)の鉄鉱石価格が10%超上昇したことで豪ドルが買われた。しかしながら、昨日の買い手と言われた中国勢が上述のように休場となることを考えると、本日は大きな動きを期待するのは難しいか。なお、東京市場以後の欧米市場は、ユーロ圏HICPコア速報値や米連邦準備理事会(FRB)がインフレ指標として最も重要視している米個人消費支出(PCE)が発表される。指標などにより相場展開が急速に変わる可能性もあることには警戒したい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 8月完全失業率（予想：2.9%）
- 08:30 ◎ 8月有効求人倍率（予想：1.14倍）
- 08:50 ◇ 日銀金融政策決定会合における主な意見（9月21-22日分）
- 08:50 ☆ 日銀・企業短期経済観測調査（短観、9月調査）
- ☆ 大企業製造業の業況判断指数（DI、予想：13）
- ◎ 大企業非製造業の業況判断指数（DI、予想：ゼロ）
- ◎ 大企業製造業DI・12月見込み(予想：15)
- ◎ 大企業非製造業DI・12月見込み(予想：5)
- ◎ 大企業全産業設備投資計画（前年度比、予想：9.1%）
- 14:00 ◇ 9月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：37.5）

<海外>

- 15:00 ◎ 8月独小売売上高指数（予想：前月比1.5%/前年比1.9%）
- 15:45 ◇ 8月仏財政収支
- 16:00 ◇ 9月トルコ製造業購買担当者景気指数（PMI）
- 16:30 ◇ 9月スイスSVME購買部協会景気指数（予想：65.5）
- 16:50 ◎ 9月仏製造業PMI改定値（予想：55.2）
- 16:55 ◎ 9月独製造業PMI改定値（予想：58.5）
- 17:00 ◎ 9月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：58.7）
- 17:00 ◇ 9月ノルウェー失業率（予想：2.5%）
- 17:30 ◎ 9月英製造業PMI改定値（予想：56.3）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）速報値（予想：前年比3.3%）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏HICPコア速報値（予想：前年比1.9%）
- 21:30 ☆ 7月カナダ国内総生産（GDP、予想：前月比▲0.2%/前年比5.0%）
- 21:30 ◎ 8月米個人消費支出（PCE、予想：前月比0.6%）
- ◎ 8月米個人所得（予想：前月比0.3%）
- ☆ 8月米PCEデフレーター（予想：前年比4.2%）
- ☆ 8月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.2%/前年比3.6%）
- 22:45 ◎ 9月米製造業PMI改定値（予想：60.5）
- 23:00 ◇ 8月米建設支出（予想：前月比0.3%）
- 23:00 ☆ 9月米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景気指数（予想：59.6）
- 23:00 ◎ 9月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：71.0）
- 24:00 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演
- 2日 00:30 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 2日 01:00 ☆ 4-6月期ロシアGDP確報値（予想：前年比10.5%）
- 2日 01:00 ◎ 8月ロシア失業率（予想：4.5%）
- 2日 02:00 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演
- 2日 03:00 ◎ 9月ブラジル貿易収支（予想：45.00億ドルの黒字）
- 香港、中国（国慶節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

30日 16:08 黒田東彦日銀総裁

「個人消費の回復ペース、不透明感が強い」
「物価の基調は底堅さ維持、徐々に上昇率を高める」
「景気は基調として持ち直し、先行き回復傾向が明確に」
「コロナの影響注視し、必要なら躊躇なく追加緩和」

30日 16:40 フローデン・リクスバンク(スウェーデン中銀)副総裁

「2024年下期に利上げが必要だろう」
「2022年にQE減額の余地があるだろう」
「現在のインフレは長期的視点を反映していない」

30日 18:03 センテノ・ポルトガル中銀総裁

「インフレは2022年までに2%を下回る水準まで戻らう」
「不確実性に対処する最善の方法は、物事に注意深い目を保ち、安定した手を維持し、柔軟に動く準備をすること」

30日 23:43 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「2022年下期に利上げを開始し、23年に3回の利上げを見込む」

30日 23:45 イエレン米財務長官

「議会が債務上限を引き上げなければ大惨事になるだろう」
「債務上限の引き上げは、超党派で行うことが重要」
「米国の法人税率をネガティブな影響なしに引き上げる余裕はある」

30日 23:49 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「現状は完全雇用にはまだほど遠い、インフレ率は目標を大きく上回る」
「インフレは弱まると予想」
「インフレと雇用の間の緊張関係について、FRBが置かれている状況は非常に困難」
「必要ならFRBは手段を講じて高インフレを抑制する」
「インフレ期待は中期的に2%のインフレ目標とほぼ一致」

1日 03:06 メキシコ中銀議事要旨

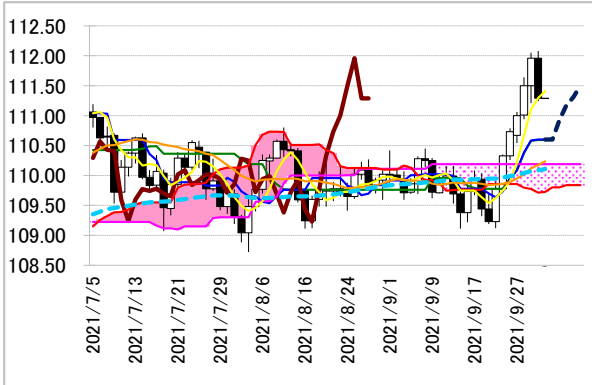
「利上げは全会一致ではなく、賛成4人／据え置き支持が1人」
「21年末のインフレ見通しは6.2%、コアインフレは5.3%予想」
「インフレのリスクバランスは上向き」
「メキシコ経済の回復は第3四半期も続き、次の四半期と来年も続くと予想」
「パンデミックに対する不確実性は継続」
「インフレ率を上昇させた要因は一過性のものであると予想するが、今後の価格形成プロセスやインフレ率にリスクをもたらす可能性」

1日 03:25 ラマポーザ南ア大統領

「新型コロナウイルスの警戒レベルを制限の最低水準である1に引き下げる」

※時間は日本時間

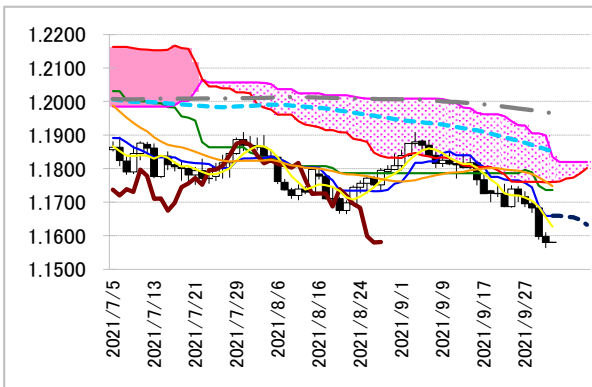
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=5日線付近までの調整は想定内>

陰線引け。小緩む場面を挟みつつも 112.08 円まで高値を更新する底堅い動きが先行した。しかし、目先のすう勢を示す 5 日移動平均線からのかい離を埋めるように 111.24 円まで失速。前日の上昇幅をほぼ帳消しにする調整安となった。やや値幅は大きめになったが、5 日線付近までの下押しは想定内。ただ、ここでふみとどまれないと、上昇が続く見込みの一目均衡表・転換線のサポートを試す展開もあるか。

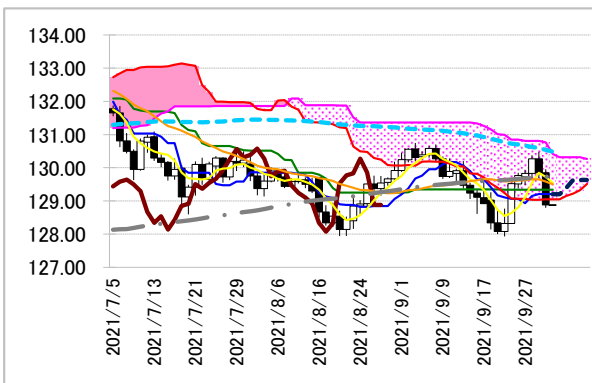
レジスタンス 2	112.08(9/30 高値=年初来高値)
レジスタンス 1	111.84(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	111.29
サポート 1	110.60(日足一目均衡表・転換線および基準線)



<ユーロドル=下方かい離を埋める戻りあっても動き重いまま>

下影小陰線引け。1.1563 ドルまで下落幅を広げた。7 月 23 日以来、約 1 年 2 カ月ぶりの安値水準で下げ渋ったものの、反発は小幅。小さな足型ながら陰線で引けた。すう勢を示す 5 日移動平均線は 1.1620 ドル台で推移しており、相場はやや下方へかい離。安値圏とあって、そのかい離を埋める程度の戻りはあるか。しかし 1.1659 ドルに位置する一目均衡表・転換線は低下傾向を脱することができず、抵抗となり同線前後の動きは重いままだろう。さえない推移が続くとみる。

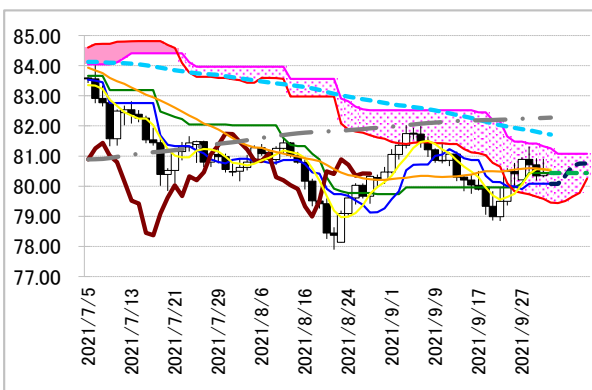
レジスタンス 1	1.1631(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1580
サポート 1	1.1541(2020/7/23 安値)



<ユーロ円=下抜けた雲の下限は強い抵抗にならないとみる>

陰線引け。9 月 29 日は相場の強弱を判断する上の重要な分かれ目である 200 日移動平均線を上回る水準で同 8 日以来、3 週間ぶりの高値 130.48 円まで上昇した。だが、低下中の 90 日移線や一目均衡表・雲の上限 130.81 円が抵抗となり失速。昨日 128.79 円まで下落幅を広げた。雲の下限 129.05 円を下回ったが、同下限は上昇中で強い抵抗にならないとみる。一目・転換線も現水準 129.21 円から上昇が続く公算で、同線を追うように反発できるか注視したい。

レジスタンス 1	129.34(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	128.88
サポート 1	128.46(ピボット・サポート 1)



<豪ドル円=やがて転換線が基準線を上回り底堅さ回復へ>

上影小陽線引け。一目均衡表・基準線 80.44 円や 80.50 円台で低下中の 21 日移動平均線を上回る水準で反発が抑えられた。一目・転換線が基準線を下回って売り示唆となっている状態で、地合いを強めきれない。だが、現状からすれば転換線はやがて基準線を上回り、買いサインが追加となる見込み。底堅さを徐々に回復することが期待できる。

レジスタンス 1	80.91(9/30 高値)
前日終値	80.42
サポート 1	80.01(9/24 安値)

